



【勝利の人生のための条件(7):御霊の剣である神の御言葉】

聖書本文:エペソ人への手紙6章 10-17 節/暗唱聖句:ヘブル人への手紙 4章 12 節

説教:鄭南哲牧師

愛する聖徒のみなさん!一週間も信仰によってみなさんの心も、思いも、体も守られましたか。梅雨明けだと思ったら、猛暑の日々が続いて、もう暑いなと思ったら、また雨ですよ。雨にも負けず、暑さにも負けず今年の夏にもみんな主の恵みと見守りによって元気よく過ごされ、祝福されるよう主イエスキリストの御名によってお祈り申し上げます。アーメン!

< 1. 有一の攻撃武具御霊の剣! すなわち神様の御言葉 >

我々の戦いは 11 節、12 節に書かれているように、“悪魔の策略に対して立ち向かうことができるため、私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものである”ことが分かりました。その様々な戦いの中対抗し、勝利するため聖書の本文は神のすべての武具である真理の帯、正義の胸当て、平和の福音の備え、信仰の大盾、救いのかぶと、そして、今日の聖霊の剣というこの六つのものは当時ローマ軍人たちが身につけていた基本武装でした。という意味は、神様が様々な戦いの中で勝利するために我々に何か特別な我々にない新しい物を身につけるのではなく、すでに我々に神様が与えてくださっている物で十分であって、いつも信仰の基本を大事にし、しっかり身につけられるように教えられていることを忘れないで下さい。

今日は最後の神様の全身武具である聖霊の剣について一緒に学んで生きたいと思います。先週までの真理の帯、正義の胸当て、平和の福音の備え、信仰の大盾、救いのかぶとは全部防御(ぼうぎょ)のための武具であります。今日のこの御霊の剣は有一攻撃ができる武具であります。防御用(ぼうぎょ)の武具は自分の身を守るだけであって、敵を攻撃し、打ち破るまではできません。“最善の防御は攻撃から”ということばがありますが、どんなに立派な武装をした軍人でも攻撃せずに、防御だけでは身を守ることはできても戦いにおいて勝つことはできません。

敵と真正面で戦う時には攻撃用の剣がなければなりません。ですから剣は当然軍人にとっては一番大切なものと言えます。今日の本文にはサタンと戦う一番大切な御霊の剣というは何だと書かれていますか。そうです。神様の御言葉です。聖霊様が働かれるのに用いられるのが神様の御言葉だと聖書が教えてくれます。ですから、私たちが聖霊の神様の力をいただくためには、かならず、神様の御言葉でいつも武装しなければ、サタンからの誘惑や戦いに破ることはできないことを覚えなければなりません。

御霊の剣というのは、ほかに特別な何かではなく、私たちがすでに持っている神様の御言葉です。新約聖書のヨハネの黙示録では御霊の剣、つまり神様の御言葉というのはキリストの御口から出たものだと書かれています。黙示録 1:16 節、2:12 節にも続けてキリストの口からは鋭(すど)い、両刃の剣が出ていると言われています。

みなさん! 私たちの手に持たされているこの聖書! この神様の御言葉というのはこの世のありふれた本ではなく、単なる御言葉だけでなく、私たちが霊的戦いにおいて打ち勝つことができる霊的な攻撃の武具なる強力な剣であることをご存知でしたか。イエスキリストを信じ、受け入れて神の子ともとなり、クリスチャンになっても、戦いに負けたり、サタンの誘惑に落ちたりする理由はいつも聖書の剣を身につけてないからなのです。

例え、イエス様は荒野でサタンの試みにあわれた時、イエス様がサタンを追い出し、誘惑に打ち勝った方法は何でしたか。何か超能力や神秘的な方法で打ち勝ったのですか。そうではありませんでした。ただ、神様の御言葉を持って大胆に宣言し、敵対されるだけでサタンは自分の目的を達成できず逃げ去ったのです。イエス様の引用された神様の御言葉はサタンの頭を打ち下ろす鋭い剣のようでした。今日私たちがみなキリストの信じるクリスチャンであり、神の子供ですので、

神様は私たちにまでもその神様の御言葉を我々の手に与えて下さって日々用いることができる権威を与えてくださいました。

<2. ローマ時代の剣と御言葉の剣>

聖書の本文でパウロが言っている剣は当時ローマ軍人たちが使った両刃(りょうば)でした。当時ローマ軍人たちが使っていた剣というのはかたっぽだけの剣ではありませんでした。左右両方どちらからも使って相手を攻撃することができるように作られた剣でした。敵を攻撃するとき四方八方(しほうはっぽう)からくる敵にむかって剣の方向をかえる必要がないように両刃の剣でたたかったローマ軍人たちにとってはかなり有利な攻撃武器です。そしてこの剣はとつてもすどかつたため相手をかなりふかく突(つ)き刺(さ)すことができる武技なのです。このすどい剣は敵の命を奪う目的でも使われただけではなく、敵の内臓を切(き)れ切れ引き裂いて敵を麻痺させ、もう無気力にさせる目的でも使われたものです。

すどい剣、神様の御言葉

愛する聖徒のみなさん! どうして当時その鋭い両刃であった剣を聖霊の剣である神の御言葉で例えたのでしょうか。神様の御言葉である聖書も鋭い両刃のように鋭いものだからです。どなたが**ヘブル人への手紙 4 章 12 節**を読んで見ましょう。

“神の言葉は生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄(こつずい)の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。造られたもので、神の前で隠れおおせるものは何一つなく、神の目には、すべてが裸であり、さらけ出されています。私たちはこの神に対して弁明をするのです。”

神の御言葉は生きていて、両刃の剣より鋭(すど)いですので、刺し通す力があると教えられています。まず、生きていて力があるということは、聖書が単なる一般の本とは違い、人の生き方や人格を 180 度買え、日々生きる希望と力を与えることのできる神様のみことばであることを意味します。神の御言葉、聖書は生きていますので、人を生かすことができ、聖書には神の力があるので、人に力を与えることができます。そして、「魂と霊、関節と骨髄」とは何を意味しますか。たましいと霊は物質ではなく、目に見えない存在です。そして、「間接と骨髄」は私たちの体の中にある見えない部分です。ですから、「魂と霊、関節と骨髄」とは、私たちの肉眼(にくがん)では見ることのできない深く隠された部分のことを意味しているのです。

そして、「魂と霊、関節と骨髄を刺し通す」ということばの意味は、神様のみことばは、表に表れてこない、心の中の考えやはかりごとさえも、その本質をはっきりととらえ、明らかにすることができるということの意味します。また、ただ明らかにするだけでなく、変えるという意味も含んでいます。

御霊の剣である神の御言葉はすべてのすべてを鋭く刺し通してその中に隠されているすべての真実をさらけ出されることができます。神様の御言葉は私たちが隠して置いた汚(けが)れている、きたない罪のすみずみさえまで神様の前ではさらけ出し癒し、回復する力があります。神の御前であらゆる誘惑と偽りと罪をわきまえることができるようにし、その原因がいったいどこから来たのかをわかって対抗することができ、そして打ち勝つことができるように助けてくれます。今日も神様の御言葉は御霊の剣として私たちの信仰と良心に訴え私たちの霊を目覚めさせるのに働かれます。それだけではなく、イエス様が荒野で御言葉によってサタンの誘惑と試みに打ち勝ったように神の御言葉を用いて誘惑と罪から勝利をすることができるようにと願われておられます。

ぜひ覚えてください。みなさん! 私たちに渡されている神の剣をいつも手に持って使わなければなりません。サタンは私たちが神の剣から手放すように、神様から与えられていても使えないように絶えずさせていることを忘れないで下さい。私たちは罪人ですので、自分自身をほったらかしてしまうと神様の御言葉からどんどん離れ、自分勝手に、自分の力とやる気のままで生きようとする傾向が強いです。時間が磯が良いから御言葉を学べる時間がないと、読んだり、黙想する時間がないと言いますが、実は時間が十分あっても、神様の御言葉は読みたくないし、ちかづきたくない傾向が私たちにあるのではありませんか。それはみなさんだけがそのように思うのではなく私たちが人間であるかぎりみんな一緒です。なぜですか。神様の御言葉を通して自分の隠されている罪、自分の弱さがさらけ出されるのが恥ずかしく、いやだし、いたいからです。みなさん、しかし、癌のような物ができちゃったら、痛くても、辛くても、我々の命、尊い人生、体全体を守るた

めに、見えないけど体の中にあるものを出さなければ根本的な癒しと回復にはならないのではないのでしょうか。

これはまるで、軍人が自分の鋭い剣によってケガされることを恐れ刀(かたな)のさやに入れといたままにいるのと同じです。結局剣を使わなければ一番損害されるのは自分自身ではないのでしょうか。そういうわけですから神様の御言葉である剣を使わなければ、私たちはやって来る試みと罪に対抗して戦うこともできず、いや、さらに大きい苦しみに逢(あ)われれると思います。しかし、いやだし、たやすくはないと思いますが、意図的でも日々神の御言葉を用いようとすればするほど、日々自分自身が守られるだけでなくサタンからの様々な試み、攻撃から勝利を味わえると信じます。そしてこれからは神の御言葉がさらにたのしく、さらなる喜びと自由を体験されると信じます。

“もしあなたが、私のことばにとどまるなら、あなたがたはほんとうの私の弟子です。そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。(ヨハネの福音書 8 章 31 中-32 節)”

この秘訣をすでに知っていた人がいました。だれだったのでしょうか。それはダビデでした。彼は勝利の秘訣はまさしく神の御言葉であることをよく知っていたので、詩篇119編の長い詩の中、神様の御言葉についてこのように告白しました。ダビデはどんなに疲れていても主の御言葉を慕い求めどんな苦しみと艱難の中でもむしろ神の御言葉によって喜ぶことができました(詩篇119篇141-143)。神様の御言葉があったため自分が生かされ滅ばされなかったと告白しています(詩篇119篇92-93節)。詩篇119篇97-98節では神の御教えを愛し、一日中自分の思いとなり、神の仰せによって自分は自分の敵より賢くされたと告白しています。普段いつも神の御言葉を愛していたダビデだったためほかの人々にはできないだろうと思っていたコリアテの前でさえも武技は持っていなかったのですが、今まで持って使ってきた神の剣を持って、神の御名によってすすみ大きい勝利を収めたではありませんか!ダビデがコリアテに勝ったのが奇跡ではなく、そんな巨人であり、勇士であったコリアテの前に出て来た自体が奇跡なのです。それはいつも身につけていた神の身言葉の剣があったから可能だったと信じます。愛するみなさん!ですから御霊の剣である神の御言葉に近づくことは私たちに祝福と勝利の秘訣であることを信じてください。神の御言葉には変える力があります。私たちに一番強力な霊的武技である神様の御言葉があります。神の御言葉はみなさんの信仰を強めさせると信じます。

<3. 聖霊の靈感によって記録された聖霊の剣である神の御言葉>

愛するみなさん、この聖霊の剣である聖書、この神様の御言葉をみなさんは日々どう用いていますか。

テモテ人への手紙第二3:15-17を読んで見ますと、「15 また、幼いころから聖書に親しんで来たことを知っているからです。聖書はあなたに知恵を与えてキリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができるのです。16聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正(きょうせい)と義の訓練とのために有益です。:17 それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。」と書かれています。

神様の御言葉は私たちに人生のただしいことを教え、戒めを通して注意させ守り、自分の間違っている所、悪い所を矯正し変えて下さり、義の訓練を通してキリストの似た者となるようにさせる物(エペソ人への手紙 4 章 15 節:)であることが分かります。あらゆる面において成熟と成長をともなって、十分に良い働きのために十分に整えられた者となるようにしてくれます。

ここで我々が覚えるべきことがあります。この御言葉は神の靈感によるものであると言う事です。

みなさんに一つ聞きたいです。みなさんは聖書を読んだり、黙想するため聖書を開く前に祈りますか。どうやって祈られていますか。ただ、自分で神様の御言葉を聞き、読むことだけで御言葉を正しく理解することはできません。聖霊の靈感によって書かれた御言葉なので、聖霊の助けを求めなければなりません。聖霊の靈感によって書かれた神様の御言葉を正しく悟れるようにと自分の心を開いてくださり、知恵を与えてくださるよう、そして与えられた御言葉の通りに従える従順と御言葉による力と勇気を頂けるように祈りましょう。

神様の御言葉は聖霊の剣だと申しました。ですから神様の御言葉を使う時、私たちがまずやるべきことがあれば、それは聖書の著者であられる聖霊の神様の助けを切に求める必要があります。私たちに聖霊の恵みと力が臨まれる時こそ神様の御言葉を剣として正しく用いることができるのです。

<4. あなたは今神の全身武具をしっかりと身に着けているか点検して見ましょう！>

すべての武具を身に着けるということは戦いにおいて必要なすべての準備を整えさせた状態を言います。いま自分自身は信仰の面において戦う準備ができていますか。神様が私たちに向かって‘神のすべての武具を身に着けなさい’といわれている理由をもう一度今回のシリーズのメッセージを通して深く探(さぐ)ってみてください。神様を信じている私たちはこの地で信仰の生活をしながら、たえず、敵である悪魔と霊的戦いをしなければならないからです。人生の歩みの中、次々と霊的攻撃はやってくるからです。

愛する信仰の家族のみなさん!悪魔は存在します。そして悪魔は今も働いています。サタンは今もなおクリスチャンたちを神様から遠ざけるためにあらゆる手段(しゅだん)を用います。敵である悪魔はほえたけるしのように、食い尽くすものを捜し求めながら一人の魂でも滅びに陥らせるために歩き回っています。それに神の栄光のために生きようとしている人々に対しては、なおさら、すき間をねらい、迫害しながら、神から、信仰から離れさせようと歩き回っています。

反面、神を知らない多くの人々は今も自分を苦しめている正体(しょうたい)はいったい何なのか、どうして人生がこんなにつらいのか知らないまま、どんなものでも神だと信じ込んで、お金でも、物でもとにかく自分たちを守ってくれ!と、たすけてくれ!と残念ながら自分の命、人生をかけながら、拝んでいるのです。

しかし、神を信じている信仰の子供たちである私たちはこの御言葉を通して表(おもて)に出されていることだけ見るのではなく、その裏で起こっている、はげしい霊的戦いの世界を見抜き、悪霊たちの正体を知り、戦って打ち勝つ方法も知っています。

<まとめ:もうあなたが勝利が保障された戦いをしています！>

今日も私たちはすでに打ち勝つことが決まっている戦いをしているのです。なぜならイエス様はすでに打ち勝ったからです。(ヨハネの福音書 16 章 33 節-‘私がこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあつて平安を持つためです。あなたがたは、世にあつては艱難(げんなん)があります。しかし、勇敢(ゆうかん)でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。’)私たちはようやく勝っているのではありません。パウロは自信をもって言います。“しかし、私たちは、私たちが愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあつても、圧倒的勝利者となるのです。(ローマ 8:37)”なぜですか?悪魔は影響力はありますが、神様には勝てないからです。神様を信頼し、イエスキリストの御名によってすすむ人々には悪魔は勝てません。ヤコブの手紙 4 章 7 節です。“ですから、神に従いなさい。そして悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。”イエスキリストの御名によって恐れなくて悪魔に立ち向かいましょう。そして神様は決して私たちを一人でたたかわせないことをおぼえてください。(第一コリント 10:13,ヘブル 13:5,マタイ 28:20)

今信仰のスランプに落ちていますか。ただ神のすべての武具をつかんで点検してみてください。まず、真理の帯を締めていますか。信仰の目標と焦点が濁(にご)ってきていませんか。正義の胸当てをつけていますか。日中自分の経験と奉仕と信仰をいばってはいませんか。イエスの十字架、イエスの功労をほこってください。福音の備えをはきましたか。本当に神を愛する心がありますか。それなのに動かない理由はなんですか。主に対する愛がさめている自分の信仰の状態ではないかさぐってみてください。一人の魂にたいして待つてあげれる愛の心が自分にあるのかかえりみてみましょう。信仰の大盾をつかんでいますか。日夜悪魔から放(はな)たれる火矢(ひや)に打たれなげいてはいませんか。私たちは一緒に心をあわせて団結して良いチームワークを組んでいますか。もしかすると他人をむやみに無視したり判断してしまっているのではありませんか。救いのかぶとをかぶりしましたか。今日も自分自身は神様に対する確信と救いの信仰をもっていますか。救いのかぶとをかぶることこそ私たちの信仰において一番大切だと言いました。最後に御霊の剣をもっていますか。神様の御言葉に近づいて御霊にあつて頻繁(ひんぱん)に使っているのか点検してみましょう。

私たちクリスチャンプレイズチャーチの家族のみなさんはこの六つの神様の武具をしっかりと身につけた信仰の人々になりますように切に願います。それで今年の夏にも、そして、これからのこりの人生が大いに用いられる人生となりますように。イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン!